

平成 29 年 10 月 3 日

筑紫野市議会議長 横尾 秋洋 様

公明党筑紫野市議員

宮崎 吉弘

第 16 回 地方議会研修会 研修報告書

会場:エル大阪(大阪府立労働センター)

大阪市中央区北浜東 3-14

8 月 3 日 (木) 13 時～17 時

記念公演 「人口減少」と地域づくり～現場から学ぶ～

講師 岡田 知宏 氏 (京都大学大学院経済学研究科 教授)

特別公演 逆境から未来を拓く、あば村宣言と「小さな拠点」づくり

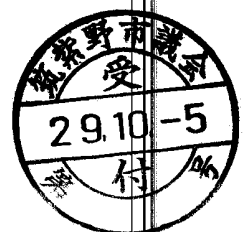
講師 皆木 憲吾 氏 (あば村運営協議会 事務局長)

8 月 4 日 (金) 9 時 20 分～15 時

農村として「地方創世」にどう向き合うか

～自治体として取るべき姿勢と対応策を考える～

講師 坂本 誠 氏 (NPO 法人 ローカルグランドデザイン 理事)



「人口減少」と地域づくり ～現場から学ぶ～

～時代と足元の地域を大きく捉える～

- ・大災害とグローバル化の時代
- ・地域からものをみることの重要性

I、「人口減少」とその社会経済的要因を見極める

- 1 日本創世会議・増田レポート（自治体消滅論・2014年5月）とその問題点
- 2 今私たちはどのような歴史的地点に立っているのか
- 3 地域経済衰退・人口減少の原因は何か
- 4 地域で暮らし続けることが困難に

II、地域を活性化する・豊かにするにはどういうことか

- 1 戦後の地域開発政策の基本的な考え方
- 2 なぜ、従来の大型公共事業+企業誘致型地域開発政策は失敗したのか
- 3 地域が豊かになるとは、住民一人ひとりの生活が維持され、向上すること

III 地域づくりの具体例から学ぶ

- 1 九州・湯布院（観光、自衛隊招致、ダムなど）
- 2 長野県栄村での村づくり
- 3 宮崎県綾町の有機農業を基盤にした地域づくり
- 4 広域自治体、政令市における地域自治組織の活用が可能に
- 5 法・条例に基づかない多様な地域づくりの挑戦と公共施設・学校の重要性
- 6 現場からの学び（コンパクトシティ）

IV グローバル競争に左右されない個性あふれる地域経済・社会の再構築と自治体の役割

- 1 地域資源を見出し地域内再投資資力を高めることが決定的に重要

2 企業のネットワークづくりと、産業と生活、環境を繋ぐ地域内産業関連の重要性

まとめ

- ① 災害の頻発とグローバル化の矛盾の中で、足元から住民の命を守り、人間らしい暮らしを回復する地域づくりが求められている時代に
- ② 個別の地域の中での地域内再投資力の強化と、国土の持続的発展の為に都市と農村の連携の強化を合わせて追求する必要がある。農林業自然エネルギーの重要性。
- ③ 個々の地域・地域レベルで、地域の住民と経営を科学的に分析し、その将来性を合理的に提起する一段高い水準の政策形成力が要請されている。
- ④ 地域づくりは、行政と住民との協同、そして団体自治、住民自治の実質的結合によって前進する。
- ⑤ そのためには、議員、職員、住民が地域を知り、科学的に将来を見通せる「地域学」社会教育の場が必要不可欠。自治体の常設研究所の重要性

「感想」

戦後経済の上昇とともに、核家族化が進んだことにより人口も増加し経済発展の礎になったのではないと思う。それは、アパート、マンションの建設が促進され物や人の往来が増え経済発展に繋がったと考察出来る。なれば昔に戻ってとは言わないが、2世代3世代同居家族の形態が増加すれば、必ず働き方改革の起爆剤となりうるのでは、と思う。

逆境から未来を拓く、あば村宣言と「小さな拠点」づくり

(あば村宣言)

岡山県阿波（あば）村は平成の大合併の流れの中、平成17年に津山市と合併し150年続いた「村」はなくなりまし、た。それから10年。合併当時700人だった人口は570人にまで減り、140年の歴史ある小学校は閉校、幼稚園は休園唯一のガソリンスタンドも撤退、行政支所も縮小・・・

まさに逆境のデパート状態となってしまいました。しかし、このような逆境の中でも未来を切り拓く挑戦が始まっています。地域住民が設立したNPOは、住民同士の暮らしの支えあいや環境に配慮した自然農法のお米や野菜づくりに挑戦していま

す。閉鎖されたガソリンスタンドは住民出資による合同会社を立ち上げ復活させます。エネルギーの地産地消を目指し、地元間伐材を燃料にした温泉薪ボイラーの本格稼働も始まりました。こうした取り組みの中で地域住民に留まらず、地域外からも協力者や移住してくる若者も増え始め、私たちは自らの手で新しい村を作ることを決意したのです。この度、私たちはあば村を宣言致します。自治体として野村はなくなったけれど、新しい自治のかたちとして、心のふるさととして、「あば村」は有り続けます。周りは山だらけ、入口は一つしかない「あば村」は不便でなにもない場所かも知れません。しかし、「あば村」には人間らしく生きるための大切なものがたくさんあります。このあば村の自然と生きづく暮らしを多くの方々と共有し、守り続けていくこと、そして子供達孫たちにこの村での暮らしや風景を受け継いで行くことを決意し、宣言致します。

合併から10年、新たな村の始まりです。

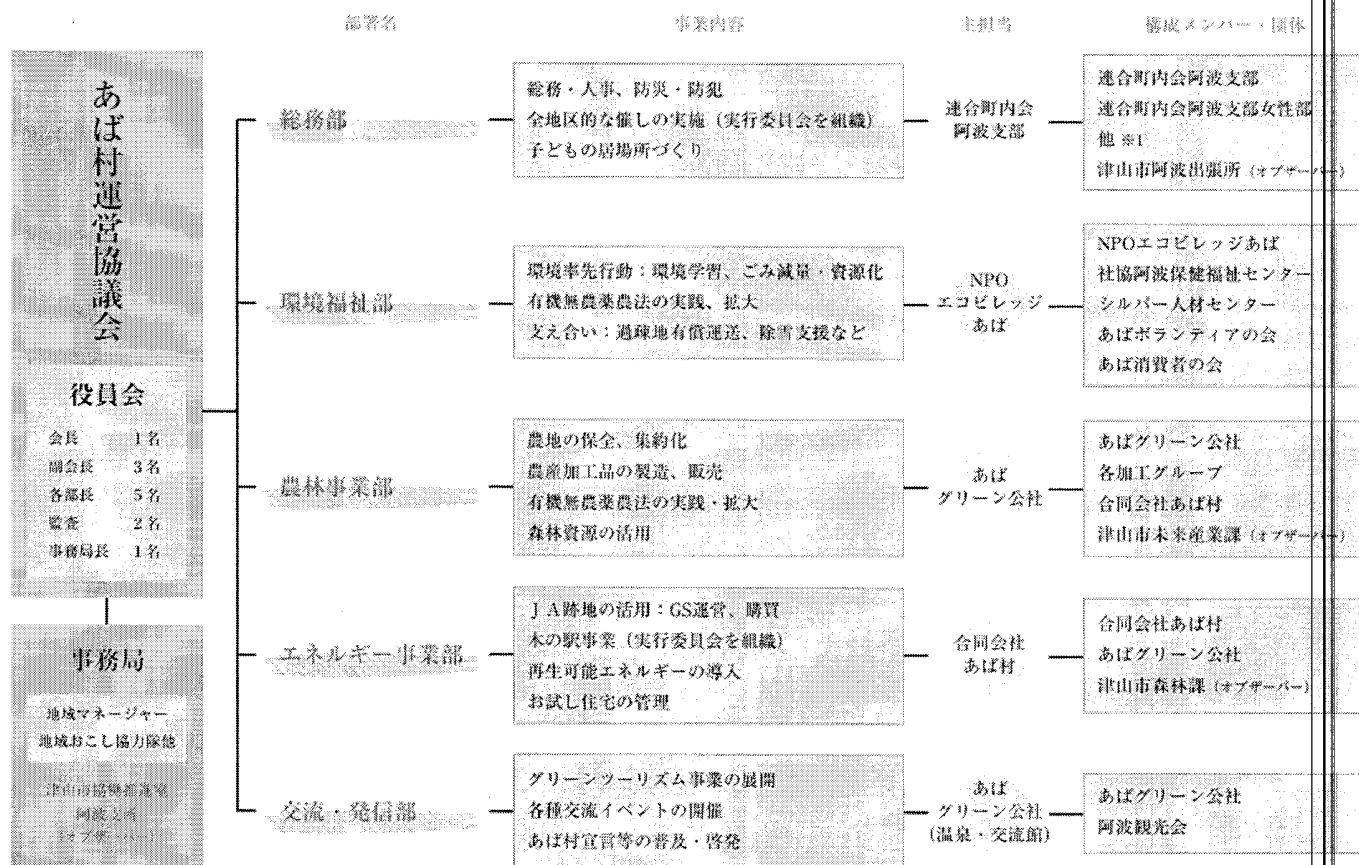
2015年2月 あば村運営協議会

会長 小椋 悠

- ・地域の人口・世帯数の推移の把握
- ・地域の年齢別の人口
- ・平成20年度から連合町内会阿波支部（8自治会）を中心に協議会発足
- ・平成22年度環境に特化した村づくり「エコビレッジ阿波構想」を策定
- ・平成23年度まちづくり協議会、阿波グリーン公社、NPO、行政で「エコビレッジ阿波推進協議会」を結成し、事業推進・全世帯を対象とした暮らしの聞き取り調査を実施

- ・平成24年度から実践的取り組み開始、NPOによる「過疎地有償運送事業」開始、ごみ減量等の環境率先行動、アヒル農法の実践、間伐材の集荷・チップ化温泉燃料へ提供
- ・過疎地（交通空白地）有償運送事業開始
- ・木の駅プロジェクト
- ・など

あば村運営協議会 組織図



参加
行政・NPO・企業など多様な主体

※1
阿波消防団 / 子供会 / 老人クラブ / 愛育栄養会連 /
民生児童委員協議会 / 阿波商工会 / 体育協会 /
文化協会 / 阿波公民館



阿波村づくり3本の矢

第1の矢：小さな拠点づくり⇒地域の暮らしの支え合い。

第2の矢：阿波村ブランドによる小さな仕事づくり

⇒農産加工品の生産・販売拡大。雇用の確保。

第3の矢：都市農村交流を通じた移住・定住

⇒交流人口の拡大。移住・定住の促進

地域の持続的運営に向けての課題

- ① 安定的財源の確保・資金確保
- ② 地域マネジメント（企画・調整）機能の確保
- ③ 事項組織の安定運営
- ④ 後継者づくり・人材育成

(感想)

阿波村の現状を確り把握した上での地道な取り組みはなぜ実現したのか、やはり住民一人ひとりが、真剣に村のことを考え知恵を出し合い現実可能なものに取り組んだ所謂責任を持って取り組んだところにあると思う。それは決して他人事ではなく自分のこととして捉えたところにあると強く感じた。どこか他人任せのところがあるのではないかとあれこれ詮索したが、それこそ他人任せではない。それ思うに、これから継続していくことがとにもかくにも大事であり立ち止まれないテーマであるとは言うまでもない。

農村として「地方創世」にどう向き合うか

～自治体として取るべき姿勢と対策を考える～

1、 地方創世がもたらすもの～地方創世の罨～

1) 中央集権への回帰(地方分権改革からの逆行)

① トップダウン的な計画体系

② 財政面の集権体制

③ KPI(企業計画・目標達成の可否管理等)は誰のため

2) 煽られる自治体間競争

① 縮小するパイを奪い合い、少数の「勝ち組」と多数の「負け組」を生させる不幸なマイナスゲーム。

② 結果としての自治体間の給付競争

③ 地域間競争の罨⇒誰がルールと勝敗基準を設定するのか？

④ 見落とされた旧町村部

3) 地方創世の罨に陥らないため

① 地方創世=人口対策と捉える限り、地方創世の罨からは逃れられない。

② 地方創生に向けて取るべき姿勢

2、農村の直面する課題～農村政策の展開とその限界

1) 人口問題の諸相

① 高齢化：高齢人口が急増する都市・都市近郊、高齢人口が減少する農山漁村

② 若年層の東京圏への集中・滞留とその原因

2) 背景1：地域経営における多様化の喪失

① 農の営みと山林の営みの切断

② 農自身もモノカルチャー化

③ 人口支持政策とその限界

3) 背景：地域経営におけるマネジメントの喪失～農村全体における3つの空洞化

3、農村の未来に向けて今私たちができること～自治体としてなすべきことを中心に～

1) 地域運営組織による自立力（マネジメント力）回復の可能性と留意点

① 3つの空洞化への対応策としての地域運営組織

② 留意点

2) 地域内の多様な人材を生かす

① 地方創世の罨に陥らないために

② 人口ではなく人間に向き合う

③ 地域づくりの大原則に立ち返ろう

④ 地域づくりの効果⇒住民の地域に対する誇りと愛着の再生

⑤ 多様性を前提とした連携の重視⇒御酬性の及ぶ関係の再構築

3) 新たな人材の確保に向けて

① 田園回帰（農漁村への定住願望の高まり）をどう受け止めるのか

② 移住・定住対策のあり方

4) 農村における経済対策（市町村だけでなく、県、国レベルでも取り組むべきこととして）

① 多業を前提とした収入対策

② 支出対策

③ 特に教育負担をめぐる社会的矛盾の解消を

4、 まとめ～地域づくりに取り組む際の心がけ

1) 完成品思考から脱却～斬新主義へ

2) 炭化型地域づくりを目指そう（長期戦で考える）

（感想）

限界集落に陥る自治体は日本全国に広がりつつある

明日は我が身との認識で我が郷土を愛する人材を多く生み出さねばならない

その1点ではないかと最終的な結論ではないか？

企業であっても、趣味的な団体であっても、学校教育、その他組織的な形成をなされる団体は絶対と言っても過言ではない。そう立ち返れば教育が大事、最重要課題ではないか。

我が地域を愛し、慈しみ、先輩を敬い、ご近所を大事にして行く事が、結論と言える。